未来にはばたけ 希望の九小

9小だより

ふれあい
じっくり
あたたかく

http://www.fuchu09s.fuchu-tokyo.ed.jp/

7月

令和４年７月１日（金）

府中市立府中第九小学校
校　長　　生井　信太郎

「３年振り」の九小「第九」への思い

副校長　奥井　寿美子

「３年振り」という言葉があちらこちらで聞こえてきました。本校も、６月は、「引き渡し訓練」を３年振りに行いました。３年生までの児童のみならず、初任で３年目までの教員も初めての訓練でしたが、保護者の皆様のご協力により、大地震を想定した動きがスムーズに行われました。ありがとうございました。

日本各地で大きな地震が発生しています。実際に起きた場合は、臨機応変に、学校やその他の場所で、確実に保護者の皆様にお子さんを引き渡すことができるまで、お預かりすることになります。実際に訓練を行うことで、そのことを再確認できました。今後ともご協力どうぞよろしくお願いいたします。

他にも、３年振りに何とか復活してほしい本校の行事があります。それは、「全校児童で第九を歌う」というものです。３年前まで、毎年集会で歌っていたとのこと。何とドイツ語で歌うのだそうです。少しずつ各クラスで練習を始めている、という話も聞こえてきています。

本校は、「九小」は「きゅうしょう」と読みますが、「第九小学校」は「だいくしょうがっこう」と読むことになっています。年末の風物詩であり、小学校でも「よろこびの歌」と題され、親しまれているベートーベンの交響曲第九楽章「第九」にあやかっているのでしょう。昨年度からの赴任の私は、まだ子供たちの「第九」を聴いたことがありません。

先日、NHK「クラシック TV」という番組で、「第九」の特集をしていました。ベートーベンは第八楽章から１２年もかけて、生涯最後の作品となった交響曲第九楽章を作り上げたそうです。普通ならベースの音となる、コントラバスやチェロに主旋律を演奏させたり、交響曲に合唱を入れたりすることは異例中の異例だったそうで、ベートーベンの渾身の一作だったことが分かりました。そんな名曲を子供たちがどのように歌い上げるのか、是非聴いてみたいと思っています。

あっという間に、２０２２年は半分を終えました。予測不可能な状態はまだ続いていますが、年末に向けての夢がこの「九小の『第九』」です。

３年振りの行事として、夏季休業中の水泳指導、２泊３日の日光林間学校・セカンドスクール、連合陸上競技会…と続きます。１学期の様々な取り組みへのご協力に感謝を申し上げると共に、２学期からの「３年振り」に向けて、どうぞよろしくお願いいたします。